

令和 5 年度
第 3 回茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会会議録

議題	1 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン骨子(案)について 2 その他
日時	令和5年8月 23 日(水)14:30~16:00
場所	市役所分庁舎5階 特別会議室
出席者	野田邦弘委員長、山口佳子副委員長、清水友美委員、矢川憲委員、 松本陽子委員、岩本一夫委員、沼上純子委員、青木幸美委員、 尾木左紀子委員、 (欠席)楠山小百合委員、西澤秀行委員、伊藤隆治委員、入江観委員、 井上由佳委員 (事務局)文化推進課 菊池文化推進課長、井上課長補佐、粟生田課長補佐、 大久保課長補佐、田中副主査、篠崎主事
会議資料	・次第 ・資料1 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン骨子(案) ・資料2 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン骨子(案)の 修正について
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	—
傍聴者数	0人

茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会

令和5年 8 月 23 日(月)14時30分から
茅ヶ崎市役所分庁舎5階 特別会議室

○事務局(菊池文化推進課長)

皆様こんにちは。定刻となりましたのでこれより会議を開催させていただきます。

文化推進課の菊地でございます。本日はお忙しい中ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。ただいまより令和5年第3回茅ヶ崎市、茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会を開催させていただきます。

本日は楠山委員、西澤委員、伊藤委員、入江委員からご欠席のご連絡をいただいております。

また、清水委員より、遅参する旨のご連絡をいただいております。井上委員につきましては、ご連絡をいただいておりますが、出席の旨お伺いしております。

現在、8人の委員さんのご出席をいただいておりますので、茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会規則第五条第2項に定める開催要件を満たしておりますことをご報告いたします。

また、この会議は公開となっておりますが、本日は傍聴の申し出はございません。

次に、資料の確認をさせていただきます。本日の資料は事前にお配りしております「文化生涯学習プラン骨子案」また、本日机前にお配りしております次第、及び資料2「茅ヶ崎市文化生涯学習プラン骨子案の修正について」となります。不足している方はいらっしゃいますでしょうか。

前回に引き続きのお願いでございますが、今回も会議録作成システムを導入してございますので、ご発言の際は、お手元のマイクをご使用いただきますようお願いいたします。

それでは議事進行につきましては、委員会規則第4条第3項及び第五条第1項の規定によりまして、野田委員長をお願いいたします。

○野田委員長

それでは会議を始めたいと思います。発言されるときはボタンを押して、マイクの明かりが点灯しましたら発言をしていただいて終わったらまた切ってください。

お願いします。

それでは、議題1です。文化生涯学習プラン骨子案について、事務局の方から説明をお願いします。

○事務局(大久保課長補佐)

文化推進課の大久保課長補佐です。よろしくお願いいたします。

それでは、議題1「茅ヶ崎市文化生涯学習プラン骨子案について、該当場所についての説明をさせていただきます。

資料1をご用意ください。前回までは、骨子案のうち第3章の施策1から施策3、36ページから41ペ

ージまでを中心にご審議いただいたところでございます。

本日の委員会では、第3章のうちの施策4、また第4章、42ページから50ページまでを中心にご審議いただければと思います。

では内容について説明させていただきます。42ページをご覧ください。

施策4は「個性豊かな、豊かで愛情のあるまちづくり」になります。

施策4の方向としましては、茅ヶ崎市の文化をさらに発展させていくため、想像力に溢れた人材が集まり、育つ環境づくりを進めること、市内に点在する文化資源を生かし、市民それぞれに茅ヶ崎が愛着と誇りあるまちとなるよう、地域の価値を高める取組を進めること、そして教育、福祉、経済、まちづくりなどの分野や、他の分野、市民活動団体等や企業、学校等様々な主体と連携・協働し、総合的な事業展開を図ること、この三つを記載しております。

また、これを踏まえ主な取組として、三つの取組を記載しております。一つ目として、クリエイターが集まり育つまちの形成としまして、登録有形文化財である旧南湖院第一病舎をクリエイターの活動の拠点として整備すること。また、文化・芸術に関するイベントやワークショップ、講座等を開催し、次世代のクリエイターの育成や発掘につなげること。そして、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟を目指すことについて、取り上げさせていただいております。

二つ目、文化資源を生かした街の価値の向上としまして、こちらは市民の文化資源に対する知識や理解が深まり、市民の茅ヶ崎への愛着の醸成に繋げるため、国登録有形文化財をはじめとする文化資源の調査・保存・改修・公開に向けた取組を進めること、また、文化資源だけではなく、様々な資源と繋がる取り組みを進め、地域の価値を高めるとともに、観光業の促進を図ることについて記載をしております。

そして三つ目は、様々な分野、実施主体との連携による総合的な事業展開、におきましては、効率的かつ体系的な事業展開ができるよう、生涯学習事業のコーディネートをを行うことや、城山フェスタを開催し、地域のにぎわいを創出するとともに、様々な学び体験の機会を提供することを記載させていただいております。

続きまして46ページをご覧ください。

第4章では「プランの推進に向けて」としまして、推進体制や進行管理について記載をさせていただいております。

46ページからの部分につきましては、市民、業者、市の役割分担について記載しております。

それぞれが様々な取組を行うことの必要性について、記載をさせていただいております。また、プラン推進の役割を担う主な施設として、文化会館やゆかりの人物館、ハマミーナまなびプラザといった、施設について記載をさせていただいております。

50ページをご覧ください。プランの進行管理としまして、評価の考え方や時期、内容についての記載をさせていただきます。

考え方としては、文化・芸術、生涯学習に関する施策は、成果に時間がかかること、また、効果を数値で測ることが難しいということが挙げられるため、事業の参加者数や、実施数、実施回数などの数値指標を効果確認の参考データとして取り扱うこと、また、アンケート調査の結果や職員へのヒアリングなども加え、

総合的な評価を実施することとしています。

評価の期間や内容につきましては、単年度評価について、文化推進課は各実施施策の年度実績を評価し、推進委員会に報告。推進委員会は、事務局の評価に基づき、施策ごとに評価を実施し、取組の見直しや内容の改善をなどについて意見・提言を行うことなどを記載しております。

また、中間評価につきましては、プランの三つの基本目標の達成度につきまして、指標を用いて、評価することを記載しています。

本日ご審議いただく骨子案の内容につきましては、以上になります。

次に、前回までの会議を踏まえました骨子案の修正案を作成しております。

料 2 をご覧ください。この資料のページ数につきましては、資料 1 の骨子案のページ数にページ対応していますので、ご承知おきください。

19 ページ 20 ページには、今年度実施したアンケートの調査結果を追記しました。

令和 5 年度のアンケート調査は、6 月 15 日から 7 月 6 日まで、無作為抽出の市民 2000 人を対象に実施。359 名から回答をいただいております。回答率は 17.9%となっております。

アンケートは令和元年度に実施した調査と同様の内容を実施しており、表の回答数、及び回答割合欄の上段が今回の調査結果、下段の括弧書きが令和元年度の調査結果となっております。

また、辻ページ以降のページ番号 66 から 68 につきましても、アンケートの結果を添付しています。こちらは、骨子案巻末に予定をしております資料編に入れさせていただき予定となっておりますので、併せましてご確認をお願いします。

次に 32 ページをご覧ください。ここではプランが目指すべき将来像を記載しておりましたが、市の最上位計画である総合計画の将来都市像との棲み分けがわかりづらいのではというご意見を踏まえまして、プランが目指す姿に表現を改めました。

本プランが目指す姿の実現に向けて、目標を定め、施策を実行することで、これが総合計画における施策目標 4「誰もがいつでも学べ生きがいを持って自分らしく暮らすまち」の実現に繋がり、総合計画における将来像の実現にも寄与していくという流れを考えております。

こうしたことから、説明の最後の部分を、1 の説明最後の文章が文化生涯学習のまちの実現を目指すとともに、総合計画の将来都市像の実現に寄与しますという部分に修正をさせていただいております。

また、枠内の説明文の中の「担い手」という文言が、市民に責務を与える表現ではないかというご意見をいただいたことを踏まえまして、文言を「主役」という言葉に改めさせていただきました。

次に、37 ページをご覧ください。

施策 1 の③インクルーシブな事業展開につきまして、施設運営の取り組みのところになります多様な方に活動に参加する機会を提供すべきといったご意見をいただいたことを踏まえまして、三つ目の項目のタイトルを、多様な人が活動に参加できる環境の整備に、また改めました。

また、それに続く説明文につきましても、修正をさせていただいております。

次 44 ページのコラムにつきまして、図に博物館等を記載すべきではといったご意見いただいておりますが、こちらを踏まえまして、博物館や図書館など、プランの推進に関係の深い教育委員会所管の施設の

記載をさせていただいております。

次に 49 ページをご覧ください。

市民ギャラリーにつきましては、市民ギャラリーの廃止に関する方針について、決定の上、8月4日に公表しており、その方針の内容を新たに追記させていただいております。

骨子案の修正に関しては以上となります。

なお、報告事項といたしまして、8月20日に市民討議会を開催し、市民の皆様、約40名にご参加いただき、茅ヶ崎の文化や生涯学習に関しての、二つのテーマについて討議を行っていただきました。

内容としましては、討議1では「あなたが考える文化生涯学習とは」というテーマで、参加者が持つ茅ヶ崎らしさのイメージについて出していただきました。

例としましては、やはり海や、サザンオールスターズ、浜降祭といったものも多かったですが、教育や子育て環境が良いといった意見も挙げられていました。

続く講義2では「茅ヶ崎カルチャーを生かした茅ヶ崎のまちづくり」をテーマに議論をしていただきました。

討議1で出した茅ヶ崎のイメージを生かして、より良い茅ヶ崎になっていくには、どのような内容をしていけばいいかということで討議をしていただきました。

意見としましては、施設とイベントを組み合わせ、アーティストを支援するような取組をしてはどうかといった内容や、茅ヶ崎市には文化資源やコンテンツはあるが、市民や市外の方に対しての、情報発信につきましてあまり届いていないのではないかというご意見をいただいております。

これらの意見に対する取組につきましては、骨子案に記載している内容で対応できるものと認識しておりますので、次期プランの中で進めて参ります。

また、市民討議会の結果につきましては、今後、討議会の報告書が担当課より出来上がり次第、その内容につきまして抜粋したものを、プランの本編及び資料編に掲載させていただく予定となっておりますので、併せてご承知おきください。

議題1につきましてはの説明は以上となります。

○野田委員長

ありがとうございました。それでは議論に入っていきたいと思いますが、前回もそうでしたけど皆さんから活発なご意見をいただいて大変活性化した会議ではなかったかと思います。

どのようなことでも結構です。お感じになっていること、おかしいなというところ、これが抜けている、なんでも結構ですから、どんどんご発言いただきたいと思います。

それでは、今説明がありましたが、骨子案の42ページの施策4から始まって、50ページの第4章までの内容についてご意見を承りたいと思います。

発言に際しましては、ページ数等を冒頭に明示してください。よろしくお願いいたします。

○矢川委員

42ページの主な取組①ですけれども、クリエイターが集まる環境づくりの、クリエイターがすごく分野が

幅広いと思うのですが。

ある程度分野を絞って進めていくということになると思うのですが、どのようなものを想定されているかを、ご説明願えればと思います。

○事務局(大久保課長補佐)

ただいまの質問につきましてお答えします。

クリエイターにつきましては基本的には、幅広いジャンルを想定しておりまして、例えば作家さんだったり、芸術家の方だったり、ウェブアートであったり、メディア芸術だったり、様々なものを想定しています。ただ、今後のユネスコ創造都市ネットワークの加盟申請を踏まえまして、今そのジャンルを文学ということイメージしていますので、そういった文学に強い脚本家など、様々な文学に関わるような方も想定しているところでございます。

○野田委員長

補足しますと、あまりこれを狭く考えると、あなたは良い・悪いって話になってしまうので、それはちょっと趣旨と違うかなと思います。

若い人達も含めて、何をやりたいかわからない人も含めて、色々な人と交流するような、しいまちにしたいという思いです。

ただ、そうは言っても、ユネスコの方は厳密に七つの分野で仕切っておりますから、エントリーしなければいけない。そのようなことで今のところもよく考えてもらうということしております。

ただ、文学といっても、映画や演劇の脚本もそうですし、それからウェブゲームですね、ゲームなんかもストーリーがあったりしますので、やはり本というのは基本になるのかなと思います。

○松本委員

同じところなのですがけれども、このクリエイターが集まりということが、何となく茅ヶ崎のイメージとはちょっと乖離があって、無理に入れて作ったような感じがしたりもしていますけれども、まず旧南湖院第一病舎について、前回も申しましたけれども、あそこがあつてのことなのかなというところもあり、何となくこれを最初に持つてくるのが、市民、私は市民委員ですので、市民としては違和感があります。

まちがそういうイメージで進めたいというところはわかりますけれども、何となく違和感があります。

それと、ユネスコの創造都市ネットワークへの加盟ということ、メリットをお伺いしたいと思います

○事務局(大久保課長補佐)

説明させていただきます。

まず、クリエイター・シティにつきましては、現在も茅ヶ崎には多くのクリエイティブな活動している方が住んでいらっしゃることは認識しています。これまでの産業という部分において、農業や工業が担っていたのですが、これからはクリエイティブな職業の占める割合が大きくなっていくと考えております。

そういった中で、新たな価値観として、クリエイティブな職業も就く方が増えることで、文化的な理解が深まるとともに、経済的な価値も高まっていくことを想定しております。

そういった中で、クリエイター・シティという名前を使わせていただいて、茅ヶ崎の文化的な価値が上がるとともに、経済的価値や、シビックプライド、市民の茅ヶ崎愛が上がっていく、高まっていくことを目指して取組を進めるというものでございます。

次はユネスコの創造都市ネットワークのメリットということになりますが、こちらにつきましては、今ユネスコ創造都市ネットワークというものが世界で進め取り組みが進められておりまして、世界では約 290 の都市、日本では 10 都市が加盟をしております。

それぞれが文学や映画、アート、食文化、クラフトワークなど、そういった自分たちのまちの特性というか、文化的なすばらしさというものをアピールするとともに、そういった都市同士が交流することによって、文化の新しい交流を増やして、市民への皆さんへの文化の理解と文化の高まりといったものを増やしていくという取組になっております。

そういったものに加盟しますと、やはり茅ヶ崎としての、知名度がもちろん、ユネスコに登録しているのだというような価値が高まるという部分と、文化的交流のしやすさというのも高まるということで、今回加盟申請するというところで想定をしております。

○松本委員

まだじっくりこないです。

そうですね、ちょっとスツキりこないところがありまして、茅ヶ崎って確かにクリエイターが自然発生的に出ていると思います。それを茅ヶ崎の魅力って言うと、私はサブカルチャー的なところなのかな、こうやって何かクリエイター育てますとやってしまうと、多分市民の方は、一緒にこういう方向で、というには何となくその辺りの違和感があります。

今までもクリエイターが排出されたところだと、加山雄三さんが近所にクロイツァーさんが住んでいて、ピアノを聞いて、弾いてみたくなったとか、あとイサム・ノグチさんが大工さんの仕事を見て、ものづくりに目覚めたなど、自然発生的に行ったのが超一流のところに行ったという、本当に自然発生的なので、こうやって旗を振って、市がやるのが、ちょっとここでこれは言うことではないのですが。

○事務局(大久保課長補佐)

まさに今委員おっしゃる通り、そういう文化というのは、自然発生的な部分が多いかと思いますが、近くにそういった環境があって、例えば加山雄三さんの数軒隣にそういった方が住んでいらっちゃって、音楽に目覚めたとか、香山さん逆に向かいの家の方が海洋大学に行かれていて船のことすごい興味を持って、自分で船を何隻も作っちゃったとか、そういった身近にそういった環境があるということが、大事なことだと思っております。

クリエイター・シティなんてちょっとかっこつけた言い方をしていますが、まずはやはり皆さん、市民の皆さんの近くに文化的活動があるということ、知ってもらえるような環境づくりをしたいということが一つ大

きな意味があると思っています。

それが例えば茅ヶ崎のアーティストと言って、よく知らないよねっていうことも多いかと思うのですが、そういった方たちを市民の方たちの前に見えるような形で、例えば創作活動をしていただいたり、ワークショップをしていただいたり、市民との交流を深める中で、例えば小さい子どもがお兄ちゃん、すごい恰好良かったね、自分もやってみたいとか、そういった気付きを育てていたり、もうちょっと大きなケースでいくと、実際作家になってみたいのだけど、勉強の仕方がわからないな、勉強するものではないのかもしれないのですが、ただそういった方たちにヒントを与えるような講座のようなことをして、市民の方に身近にそういう文化がある環境というのを作りたいと思っています。

アーティストにおいては、茅ヶ崎に来ると、そういう環境もあって活動がしやすいですとか、すごく居心地が良いことで、茅ヶ崎に住んで活動したい、といった場所にしたいというような思いが込められているというところがございます。

○野田委員長

私も個人的には同じ不安は持っています。役所がサブカルやれと言ったら、おかしいなと思います。でも、考えてみると、京都の漫画ミュージアムは、元小学校なのですよ。小学生たちが来て、そこから漫画本を借りて、校庭で漫画ばかり読んでいます。僕らが子どもの頃は、学校で読むではいけなかった、持っていけなかったですよ。

時代も変わりますから、懐が深い気持ちといいますか、自由にやらせるということが大事であって、もちろん法律の範囲でということはもちろんです。

そういう都市の性格を持っていると思います。

なので、そういうことを、良い方向で発展させたらどうかと思いますし、変に行政が指導に入ると、みんな引いていきますから、それは行政のやり方が間違っただということだと思いますけれども、市民をきちんと、コントロールしていったら良いと思います。

骨子案の施策4から第4章の最後全体まで残りのところにつきまして、修正も入りましたので、それを踏まえて、ご意見を皆さんから出していただきますので、何かぜひご発言をとと思います。

他にございますか。

○岩本委員

今、松本委員さんがおっしゃったことは、僕も同感なのですが、前にもお話したのですが、はっきり言うと、このようなことは出来ないと思っているので、あまり意見を言うのもやめようと思っていたのですが。

私は違和感を覚えます。出来ないと思いませんか。

クリエイターの実態をご存知かどうか、多分ご存知ないからこうやって言ってしまうのかなと思うのですが。清水委員もクリエイターですし、僕もデザインをずっと、大学出てからやっていますから。

それで飯食っていったってことを考えれば、クリエイターなのかもしれないけれども、クリエイターで仕事頑

張っている人って忙しくて、市民に何か教える暇なんてない。食えない人はというと逆にアルバイトしないと。

目指しているクリエイティブな仕事はできないので、いわゆる道路の警備をやったりね、そういうことをしながら、絵を書いたり本を書いたりしているわけです。とてもじゃないけれども、近所の方に教えたりというような余裕のあるクリエイターというのは、僕の周りにはちょっといなくてね。

東京芸大の大学院まで出ていて絵で食えないという人を何人も知っていますよ。あるいは、書道をやっているけれども、書道では食えない。中には、子どもを集めて塾みたいにして、教えたりして細々とやっている人いますが、それはもう全然クリエイターとしての活動でも何でもないのです。

生きていくために仕方がなく、そういうこともやっていますけれども、現実、クリエイターってちょっと格好良いけれども悲惨な状況で、衣食のために企業の下請けの下請けの二つの下請けぐらいの仕事を、嫌々やっているという方が非常に多いですよ。

ですから、僕はタイトルとしては、このようなまちは恰好良いと思うけれども、実際に、そのようなまちづくりってないだろうし、こういう取組が、文化・芸術に一銭も助成金を出さないようなまちが、クリエイターの活動の支援なんかできっこないと思っていますから、絵にかいた餅だろうと思います。

ただ一つのこういうプランの目玉のような形で、新しい発想として載せるのであれば、載せればいいじゃないのというぐらいの感じなのですよ。

○事務局(大久保課長補佐)

確かに岩本委員がおっしゃる通り、お仕事をされて、暇がなくて大変だという方もいらっしゃる。

もちろんそうだと思います。ただ一方で、もともとクリエイティブなお仕事をやられ「いて、ご結婚されて、お子さんいらっしゃるって、自分の子どもを育てながら美術を地域の子どもたちに教えているような方もいらっしゃる。そういった思いを持って茅ヶ崎に住んで活動してくださっているアーティストの方もいらっしゃるのも事実だと思うのです。

そういった方たちや、色々な方たちがいるということは当然認識していますし、もちろんお忙しい方に無理にワークショップをやってくださいなんて、言うつもりはないです。

ただ、子どもたちを育てたいという思いを持ちながら、活動を一生懸命頑張ってくださっているアーティストの方もいらっしゃる中で、私たちとしては、やはり未来の子どもたちがそういったクリエイティブな活動、仕事、興味を持っていただいたり、仕事に就くようなものになっていただけるような活動ができればと思っています。

小学校のアンケートでになりたい職業を聞くと、その子たちが大人になっているころには、3分の2ぐらい仕事が変わってしまい。昔の仕事がどんどんなくなって、新しい仕事に変わっていくのだというような話を野田委員長から以前教えていただきました。

やはりそのような形で、どんどん仕事が新しくなっていて、クリエイティブな仕事が多くなって、今まで全然なかったものってというのが、例えば YouTuber とか、そういった仕事もそうだと思うのですが、15年前ぐらいまでは、私たちが想像できなかった仕事は今ものすごいお金を生み出している中で、将来を考えて少

しでも子どもたちが健やかにというか、文化的な活動に興味を持っていただきたいという思いで、この事業を進めればなと思っております。

○岩本委員

今のお考えは全くすばらしいと思うし、僕も子ども相手に、海洋少年団作ったり子ども会作ったり色々なことをやりましたけれども、自分の持っているノウハウを何とかして伝えたいという気持ちでそういうことをやってきたわけです。

だから地域にはそういう大人はたくさんいるし、僕のそういう活動に協力してくれた人もたくさんいます。捨てたものじゃないと思うのです。

ただ、であれば、その取組の方法論から、文化変えていかないといけないのではないのでしょうか子どもたちに何とかして、大人たちの、文化的な、あるいはクリエイティブな知識を伝えていける仕組みを作るみたいな。そういう取組だと言ってやるのであれば良い。クリエイターが集まる環境づくりとか。ここにはないのかな。第二の開高健を出すとか、そういうことを言われてしまうと、開高健なんてだって、何百万人に1人の存在でしょ。そんなものをつくり出せるわけじゃないじゃないですか。

プロがやってやったって、なかなかそういう人材なんて育てようと思って育つものではないし、では、市がそのようなことできるのですかと。だから僕はできないと思っているからね。と思うのだけど、今みたいな環境を何とか作ってあげたいというのであれば、それはそれで、色々な方向性がまた出てきますよ。やり方もあるし、あるいは小学校で英語なんか教えないで、そういったクリエイターの関係のことをやる。総合学習みたいな時間を増やすとかね、色々な方法があると思うので、ここはもうちょっと視点を、そういう視点で行くのであれば、全面的に文章を変えないといけないですね。

それであれば、大賛成ですよ。

○事務局(大久保課長補佐)

ご意見おっしゃっていただいてとてもありがたいです。ありがとうございます。

とはいえ、子どもの部分も大事なのですけれども最初にお話した産業的な部分という視点も、とても大事な価値観です。なので、その両方のところを入れられればというところで見栄を張った書き方になっているのかもしれないのですが、イメージとしてはそういうクリエイター側の目線として、住みやすい環境、産業的に経済的に、価値を生み出すようなイメージ。

もう一方では、未来の子どもたちを育てていくというこのクリエイター側と市民側と両方を見てイメージをしているというところなので、内容全部変えるということはないと思うのですけれども、そういった部分がどのように表現できるかというのについては、検討できればと思います。

以上です。

○山口副委員長

私もこの文章を読んだときに、クリエイターの方向性とか、どのようにして、集まってくるのって、確かに東

京からこの1時間という場所というのは、人材の集まりにくい場所。

豊かに暮らせるかもしれないけれども、優秀な人材をどう集めるか、優秀な人材というかそういう将来を育てていくようなクリエイターといえる人たちをどうやって集めるかというのが、まずこの文章を読むと欠けているなという思いはあります。

ですが、中学校では職業体験が、商店とか、何か物を売るだけだったのがだんだん広がってきているように思います。

私的で申し訳ないのですが、うちの設計事務所にも中学生が来ます。この電線をどう思うかとか、歩いて緑がないねとか、そういうところから一つ一つ始めていって、いろいろなその思いを持った子どもたちができていく育っていくから、それは何らかの形でクリエイターを育てるという思いがなければ、どういう方法でやるかということも出てこないと思います。

次にどういった方法でやるかということも皆さん自分の頭の中で考えながら、まず文章に、クリエイターをどのように集めるのかという部分を、入れ込みながら考えていくということをすれば、それは短い時間では無理かと思いますが、加山雄三さんも茅ヶ崎でガンガン音を出していたので、ワイルドワンズも育ったし、あそこでああいう音がするというので、音楽が育ってきているのではないかと考えています。ですから、大きな目標というのが、今、目の前ではないかもしれないけれども、それを使っていくことは大事なのではないかと考えております。

○野田委員長

ありがとうございます。ちょっとこのテーマ、議論が盛り上がるところです。他にこのテーマについてご意見があれば、挙手をお願いします。

○矢川委員

先ほどお答えの中で、クリエイターが集まることによって、文化的にも上がるし、経済的にも何か効果があるとおっしゃったと思うのですが、その辺りを具体的にどういうロジックで経済的にうまくいくのかわかるのを教えていただけるとありがたいです。

○事務局(大久保課長補佐)

説明させていただきます。先ほども説明ありました通り、今どんどんクリエイティブな仕事が、昔とは違い増えています。そして、実際にお金を稼げるような仕事になってきています。そういった中で、たくさんのクリエイターの方に住んでもらうことによって、そういった方たちが茅ヶ崎市内で経済活動をしていただいたり、それが市外に及ぶかもしれません。そういったことで、もちろん茅ヶ崎の中も潤いますし、茅ヶ崎市としても潤うと。そういった意味でその経済的な部分がメリットというような説明になります。

○矢川委員

例えば、それが盛り上がってくると茅ヶ崎市で出版社や音楽事務所ができるとかそういうイメージと考え

てよろしいでしょうか。

○事務局(大久保課長補佐)

概ねそれに近いかと思います。そういった職業も1人でやられる方もいらっしゃいますし、会社をつくられる方もいらっしゃるという、そういったイメージです。

○野田委員長

会社になる方もいらっしゃるの、そういったイメージをしていただいて間違いがないかと思います。

間違いがあるので、補足いいですか。出版社とかは、もうなくなります。

なくなると、それはもう産業ではありません。新聞はどうでしょう。

私は大学で16年教えましたけど、新聞をとっている子は1人しか見たことがないです。

下宿している子は、100%とっていません。それが良いとか悪いとか言ってはいません。

先程、紹介していただいた、今の小学生が大人になった時に就く仕事の3分の2はない仕事だと言ったのは、僕らが50年前を思い出すと、国鉄の職員の人は切符を切っていましたし、電話が始まったころ、電話交換士がいましたよね。バスで車掌さんがいたし、それは全部なくなっています。

ちょっと不便を感じてますでしょうか。それはもう慣れていくのだと思います。

茅ヶ崎の産業特性を見ますと、製造業が割と弱いという、これは言い方なのですが、逆に言うと第3の産業が強い。飲食店や、サービス業が大きいです。

ということは、比較的産業構造が変わっていても、強いのです。例えばデトロイトの事例が、一番わかりやすいのですが、デトロイトは1950年の時点で人口が180万人いたのです。アメリカの5番目の都市なのですが、そこで自動車産業が集積していましたが、日本に全部やられたのです。

現在は、人口が3分の1になって、10年ほど前に財政破綻しました。

財政破綻という、都市がもう能力がなしと言われて、州や郡が出てくるのです。そしてその予算を管理するのは。しかし、今では逆に、V字回復しているのです。

すごく空きスペースが出て、安くなったから、クリエイターとか、例えばシェフになりたい人とかたくさん若い人が出てきて、引っ越してきています。なので、今、活性化してかなり観光都市になっています。

言いたいことは、先ほど批判されましたが、クリエイターにもうなっている人を考えますけれども、もちろんそれもあるけれど、その前にその卵たちが集まってくるっていうイメージです。僕が横浜で見てそう感じたのです。横浜でも10年前同じことやったのです。

そうすると、順番として、芸大出たけど仕事もないし、それやりたいけどみたいな若者が来て、それからそういう若者がどんどん集まって情報交換始めるのです。そして何かを始め出します。

とにかく若い人たちっていうのは、要するに金になったりならなかったりするし、人を紹介したりもするし、何か始めるのですね、イベントとかプロジェクト。

そうするとそれがうまくいけば、少し名の通った人も来るようになり、広がって大学教授なんかも来るのですよ。

そんなことが一部で起こりましたから、そういうメカニズムっていうのは結構普遍的かなと思っていますので、ご質問の産業っていう意味は、これから産業構造が変わりますと産業構造が変わっていくってことを考えない限り、これまでのことだけで考えていたら、もう通用しませんよっていうことですよね。

そこでこれから一番考えざるをえないのは若い人達のことなので、若い人達に逆に言うと学ぶぐらいのことも必要だから。

だから、今あるものも、もちろん大事だからそれとどう繋いでいっていかってということが大人の役割になるのかなと思います。

○清水委員

私も同じくこのクリエイターを育てるというのは、卵の方を集めるのだと思っていました。隣の藤沢市ではエファースをやっていますし、私自身も現代音楽の活動をしていますから、前にも言いましたが東京ワンダーサイトというところで賞をいただいて、会場を使わせていただいたり、公演も何回もやらせていただいたり、そういう風にバックアップしてくださる会場があり、人を集めてくれる。

そういう手助けをするということが重要だと思います。

クリエイターを育てるということは確かに現実的ではないので、商業的に有名な方は、その方の才能があるわけで、ここで、そういった方を育てるノウハウはあるわけがないので、ただそのクリエイターの方は、必ずある程度助成金が出たり、活動費を見てくれるとか、あるいはそこで長期に制作活動ができるとか、周りの市民の方とワークショップができる、共同制作できると言えば、絶対に集まります。私だってやりたいです。

私が茅ヶ崎でずっと思っているのは、現代的な音楽やダンスなどに、理解があまりないという印象です。サブカルチャーは商業的に成功しやすいですし、自分の力で育てていると思いますが、純粋なそういう先鋭的な芸術というのは、私も今でもそういった活動をする時は助成金をいただいて活動していますから、理解を得られるのか商業的に成功するとかいう問題ではなくて、この日本の文化をいかに発展させていくか、茅ヶ崎の文化を発展させていっていかっていうところで見なくては仕方がないので、どちらかと言えば、色々な人を育てるという意味から、卵が来た時にいかに市民が応援できるかという環境を繰り返すうちに、市民の皆さんが芸術への理解ができて楽しめるようになるわけです。

そういったことをやるのが、大事なので、クリエイターではなく第2の桑田さんとか、第2の開高さんのようにやるならそれは無理ですよ。

なので、温かい目で、商店街や企業等が、若いクリエイターを育てることが、重要なわけです。例えば、私はインクルーシブの活動に力を入れています。養護学校の方が卒業後に音楽が好きなのでホールでお客さまの前でやれるということに喜びを感じてすごく生き生きしていましたし、今日は午前中に足立区の、介護とアートをつなげるというもので、私は包括支援センターや老人クラブで指導していた方たちの発表だったのですが、それも本当にもう元気。元気な方が率先して、年配の方が孤立しないように応援して一緒に音楽をやろうと言って、今日は少年少女合唱団やバンドも色々な方が発表されたのですが、子どもたちがすごい大喜びで踊っていたりしていました。

そういうイベントを茅ヶ崎にある障害者施設等とコラボして、やってみませんかとか、そういう何かを子どもたちと作るのはいかがですか。

活動費、あるいは活動の場所があるだけでも、そういうものをコーディネートしてくれるだけでもありがたいと思います。今日行った私のイベントはまさに芸大の方が、事務局でそのようなイベントだったのですけれども。地元の商店街の方などが、どんな人がきても、どんなアバンギャルドな人がきて、何をやっても喜んでくれたり、受け入れてくれたりするような環境があれば育つと思いますが。

これはうるさいとか訳わかんないとか、そういうことを言わずに、芸術家を受け入れる寛容さを持った市民が育っていくって言うことがまずないと、アーティストも育っていけないので。

だから第2の何とかはやめていただいた方がよいと思います。

もう現実的なことで、やはり市民枠を絶対作るべきですよ。市の中ですでに活躍している方がいらっしゃるのだから、そういう方を市民枠としてどんどん応援する。それで、そのうちどんどんアバンギャルドな方など、新しい方が出てきて、何でも楽しめる、芸術の受入れができる市民が育っていけば、そこで初めてクリエイターを育てるって言うてもいいかもしれないのですけども、何かそんな気がしました。

○事務局(大久保課長補佐)

ありがとうございます。清水委員おっしゃる通り、そういったインクルーシブ教育は、とても大事なことと認識しています。プランの中で、施策1から3と4の関係性について、以前ご説明させていただきましたが、やはり当然1から3も大事で、その中でインクルーシブ教育があり、イベント等を行っていく。そういったものに、施策4も影響して事業を行っていくことを考えています。

やはりその中でクリエイティブなものが、多様な方々に対して受け入れられるようなものであったり、楽しさに繋がってくるもの。1から3と4を関係性深めながら事業を進めたいと思っております。

また、ご意見いただいた施策4の記述の仕方につきましては、ちょっと他の実施事業の中で検討させていただいている部分の文言もございますので、はっきりとここで変えますとは言えないのですが、言い回し等について検討させていただければと思います。

○野田委員長

簡単に補足します。

今のテーマに関して出ていない視点としては、もしユネスコ創造都市ネットワークの加盟都市になった場合に一番求められるのは、市の活性化もさることながら、第1には国際交流をやってくれというのがアジェンダです。

今年42都市が文学部門で加盟しています。イギリスで言うと、マンチェスター、エディンバラ、ダブリン。イタリアのミラノ、スペインのバルセロナ、ドイツのハイデルベルグというところが入っています。アジアの都市も入っていますので、国際貢献は、例えばこういうところを交流するのもそうだし、発展途上国も入っていますがそういうところに何か国際協力ができないかと。

文学部門を通しての国際協力が、アジェンダとしてあります。

なので、そういうことをちゃんと書かないと、入れてくれないです。

ですから、議論が始まったばかりですから、今はまだよいですけれども、このプログラムという趣旨をもう少し私も理解したいと思います。皆さんとも共有したいと思うのですが、そういうドメスティックなものではないということははっきり申し上げます。桑田佳祐や加山雄三は、日本の方しか知りません。例えば、小津さんの映画は世界的に有名ですし、それは茅ヶ崎市に関係があるよといった話の方が、説得力あることは、今時点では言えるのですが、これから未来志向で何を書き込むかということも、求められてくるので、まさに未来志向のプログラムだということをご理解いただければと思います。

○沼上委員

46 ページのプランの推進体制のところです。

今の茅ヶ崎の状態では、茅ヶ崎市の真ん中に集中して、市民文化会館があり、そこで発表や交流ができる場として、高齢者も子どもたちも集まることができるという風に考えます。

ハマミーナが商業施設としてすごく今大きくなって、あそこで学習フェスタとか夏場も見ているら、色々なフリースペースを有効活用して1階も2階も、非常に活気が良かったです。

44 ページの地図を見るとわかるように、茅ヶ崎は、ゆかりの人物館や開高健記念館から始まり、藤間さんのところまで、一直線に非常に文化施設が並んでいます。それらを横並びに、私も茅ヶ崎館もそうなのですが、美術館も含めて、1日で行くつか交流ができたり、またここの建物の中でフリースペースとかイベントが組める、本来は美術館だけ、美術館でいろんなことができるっていうようなイメージです。そのような建物が並んでいるのです。

茅ヶ崎館も旅館ですけども違う施設として今利用したりもしているので、南側の充実はずばらしいと私は思っています。

それで今回、マップを作り直して北側に博物館を入れてもらって、博物館もそういう趣旨では、先日博物館で藤間さんの紹介をするスペースを作ったり、色々なことを博物館内で行い、南側の情報を博物館を通して北側の方達も情報が入るような取組をしてくれています。

でも、これを見てもわかるように北側は歴史的な施設は多いのですが、この歴史的な施設をめぐることは大変困難です。

その歴史的な施設で何かするというのも考えると、北側と南側の格差をどうしたら、うまく流れるようにできるかなというのがすごくあります。

北側には博物館しかないの、そこを利用して、目的外の活動にも広げることができるのか。また、北側には南と違い、複合施設がありません。

複合施設は松林になくて、小出のコミセンぐらいしかないですね。あとは鶴嶺とかありますけど。13 地区の複合施設のうち、まだできてない2地区が北側にあって、複合施設ができれば例えば今、ここ図書館の話ではないのですが、図書館本館は南側ですけども、北側に同じ規模のものが無いということで、文化といっても色々な意味でもう少し整理して欲しいということがあります。

今回、4年ぶりに各地域でお祭りが開催されました。さあ大変です。

盆踊りが踊れませんという地区とか、盆踊りを踊っていた婦人会が解散してしまい、踊り手がない。さあ太鼓たたきましようと言っても、もう3年間たたいてないから子どもを集めたけれども太鼓の息がバラバラです。

盆踊りのやぐらの太鼓を打てませんというのが、私の方の地区ではそういう声がかかなり前から上がりました。それでかなり前から緊急に練習を始めたり、打てる人を探したりして、そういう耳で覚えたものを、毎年聞いて打てるようになり、3年間途切れてしまっていたので、今年一から、そういった無形文化財とか茅ヶ崎ならではの、例えば茅ヶ崎ふるさと音頭や、茅ヶ崎市歌が歌えないとか、すごく基本的なことなのですけれども、もっと茅ヶ崎の宝であるのです。だけどそれをどうしたら広がっていくのか。本当は子どもたちに届けたいけれども、今生きている私たちの世代やその前の世代の人たちが、楽しみながらそれを表現していけば、自然に繋がっていくのですが、今それがね。

この中でご存じの方はいますか。浜降祭の時、冊子が出たのです。みこしの担ぎ方とか、浜降祭の由来とか。どんどん市外からこちらに住む人が増えてきて、浜降祭を知らない、みこしの担ぎ方を知らない。みこしの入り方がわからない、どこで担いでいるかわからない、といった浜降祭のノウハウのようなものが出る茅ヶ崎になったのだなど、すごくしみじみ茅ヶ崎甚句が歌えないとかね。

そういうことを考えると、本当に無形文化財というか耳で覚えたものというか、そういうものを継承していくということは、今まで当たり前に来てきたことですが、当たり前ではなくなってきて、努力しないと、継承できないことになるのです。それは、すごく茅ヶ崎の大事なものなので、ぜひ歌でも祭りでも豊かに継承していくことを位置付けないと難しくなってきたなと思います。

あと、しつこいようですが、北側の建物、すごく格差があるので、例えば自治会館を有効利用するとか、文教大学を有効利用するとか、博物館を有効利用するとか、なんかそういう既存の建物をもっと地域に開放する努力が北側には必要です。この地図を見ながら、ちょっと再認識していただければと思います。

○野田委員長

南北格差といいましょうか。確かに南の方にいろいろ集中しているのはそうですが、公民館がいくつか北部にあるので、教育委員会の中でもぜひそういう視点で同じことを言っていただければと思います。

交流して、もっともっと繋がることから、時間的に言うと、コロナの間に踊り忘れちゃった、太鼓忘れちゃったということがあって、もう1回復活するにはどうすればいいかということはまた課題になりますよね。

他の皆さん何かございますか。

○岩本委員

関連して意見を申し上げますが、今おっしゃったのは、いわゆる茅ヶ崎の民族文化を継承していく方法がないのではないのか、仕組みがないのではないのか、では、それはどこにある社会教育なのか。本来は、生涯学習じゃないのでしょうかね。どこの課にしろ、そういう仕組みがないのです。

今茅ヶ崎甚句の話が出ましたけど。甚句を歌える人は今ほとんどいなくなりました。寒川神社にも甚句を歌える人がいないぐらいなのです。寒川神社の神輿愛好会に、実は昔僕が教えに行ったことある

のですが、何で漁師でもない僕が教えに行かなくちゃいけないのか。あんまりおみこし担ぐのも好きじゃないのだけど、それぐらい民俗文化がすたれていってしまう。

あるいは茅ヶ崎弁です。茅ヶ崎弁、よく使いますが、南湖出身ではないので、わかりません。で、ここは何て言い、どういう言い回しなのかなって。それを知っている人もいなくなりました。柳島に少数いるだけで。そういう状況でいいのかな。

それを誰かが、どこかで歯止めをかけるようなことをしなくてはいけないけど、民間で行うことは無理な話です。そういうところを行政が、つまり民間ができないことを行政がやっけていく、バックアップしていく。それがこのプランの最も必要なところではないかなと思います。

○野田委員長

ありがとうございました。

伝統文化の継承が、今、危機にあって、どんどんなくなっているということですよ。

○松本委員

今の話ですが、今年浜降祭と祇園祭の先祭りが7月11日で同日だったのです。それで私、京都に十年間いたのですけれども、京都では7月に入ったら、もう、駅やデパート、商店街など、みんな、お囃子が流れているのです。浜降祭の時も駅のところでお囃子をやったりとかもしていたので、今年やってもよかったのかなと思っていました。なので、その辺は行政とか商工会議所とかの協力でもう町の中に本当に耳に流していったらいいのかなと思いました。

それで、町の中がもう全部祇園祭になっています。6月の末に行っていたのですけれども、練習している。生の練習をしている音も町の中に聞こえて、観光客もみんなそこに立って聞いていたりとかして、もう町中で盛り上がっている感じなのですよ。

今、茅ヶ崎は他所から引っ越してこられた方も多いので、あまり馴染みがない、知らない方もいると思うし、もうちょっと何かそういうところ、商業施設で流すとか、甚句とか花ですとか、そのようなこともしたらいいのかなと思いました。

市としての取り組み方が京都市と歴史が違うかもしれないですけれども、茅ヶ崎と全く違っていただけで、う少し何とかならないのかなと。

あと、先ほどのユネスコの話ですけれども、浜降祭って今、県の無形文化財ですよ。もっと上って目指せませんか。それこそユネスコ無形文化遺産とか。最近、神奈川のチャッキラコ(三浦市)とかありましたよね。

私は浜降祭もいけると思うのですけれども、その辺の考えっていうのは、市の方ではないのでしょうか。

○事務局(井上課長補佐)

担当部局がというところが、私もちょっと把握しているところですが、おそらく産業観光課ですとか、産業関係なのかなというところと、神事というところでとらえると文化財の保護ですとか社会教育関係の

部署なのかなというところですが、さらにアピールしていこうという動きはキャッチしていない状況です。ご指摘いただきましたようにちょっと私どもも確認はしてみたいと思っております。

○野田委員長

地域のユネスコ委員会という民間組織ができているところもありますが、茅ヶ崎にはできてないのですよね。それがあると、ちょっと動きやすいのかなと思いますね。

他にどなたかございますか。

○山口副委員長

やはり教えてくださる方を維持するということでしょうか、継続していくために、この生涯学習ガイドブックのまなび人材に登録していただけるように働きかけてみるというのも、一つの方法なのではないかと思えます。

これも登録しても、実費はいただけるけれども、全く補助はないという状態ではあります。

ただ、資格がなくても登録できる、近所の方を集めて、自分の好きなことを教えることができるということですが、このまなび人材ですので、ここに登録していただいて、ハマミーナなどで活動していただけるようなことを、何らかの形で行う登録してくださいということをする。

そういう方たちに、きっと俺はできないよとかいって遠慮なさるかもしれないのですけれど、いや資格なんかいらないし、今までやっていたことをみんなに教えて欲しいのだということを言い続けて、登録していただいて、市が何らかの形でコーディネートなどの支援をしてもらえるように、その次の段階でいける、最初のステップにここへという風に思っています。

この生涯学習ガイドブックのまなび人材というところを見ますと、今その活用がハマミーナで行われていますし、ここで教えたことによってプロになった方もいらっしゃいます。よく市役所のロビーで教えていらっしゃる方もいらして、まなび人材の方から、出ているので、まず私たちでできることと言ったらそういう声掛けなのかなと思っています。

○野田委員長

生涯学習ガイドブックの活用が入口という話ですね。

他にどなたかございますか。

4章まで通して今のところ何かあればよろしいですか。

○沼上委員

今日、本日の資料の19ページ20ページにアンケートの最新版が出ました。このアンケートに目を通すと、やはりみんな関心がないわけではなくて、関心はあるし、情報の入手とが色々なのがあっても、市民の皆さんが意欲的な感じがするのです。

アンケートに対してでも広がりがないというのは、地域で活動していると思うのですが、例えば公民館まつ

りをやると、すごく賑わうのですが、圧倒的な市民の中から見ると、ごく一部なのですよね。

今年も4年ぶりでコミセンまつりですとか、まだ公民館まつりは来年3月なのでやってないのですが、何とか祭りという、すごく人が集まるのですが、いつも同じ人、いつも公民館に来る人がお祭りにも来られる。裾野が広がっていない。だからすごく興味、共感して共鳴している人は、確実に増えてはいるし、その場はすごくにぎわいますが、お祭りが終わったら、その祭りをきっかけに知るきっかけになったのかどうかというのがすごく不透明で、あんまり広がっているような感じがしないです。

ですが、このアンケートを見ると、市民として見れば、本当に情報の入手をして、活動もしたいし、いろいろしたいと言う人はきちんと書いているし、市の広報、あれすごく良くなりましたね。

誰がやっているかわからないですが、ある時からすごくカラーで、表紙に市民の顔がいっぱい出てきて、色々な活動の人が表紙を飾り、例えば社会教育施設はひとかたまりでやっていることが一目でわかるようにし、市民団体の紹介もして、すごく市民のための広報紙になっているというのをすごく感じるのです。すごく情報が入手しやすいです。

そういう面では、その裾野を広げるためにはどうしたら良いでしょうという風にねとりあえず、サポセンも、清水さんもよく歌っているけど、たくさん人が集まりますよね。

もうサポセンは市民活動団体がたくさん来ているので、手話をやったり歌をやったり色々なことをやって、すごく人が集まるのです。市民活動をやっているとか、すごく集まるのだけど、その裾野を広げるのが難しい。何の技術もない、何か特別なものがない、だけど、来て楽しかったと言える層を増やしていくとか、それはどうしたらいいのかが私の中では課題なのですけれども、だから何となくワクワクするみたいな、ドキドキするけど行ってみようみたいな、そういうまち茅ヶ崎、なんて思ったりもします。

○矢川委員

今の話聞いて、この中50ページにも、プランの進行管理参加者数というのを数値目標にすると書いてあります。少しあざといかもしれないのですが、ご褒美を出したらどうかと。

で、私、この夏、奈良に帰省しまして、奈良の母親が、毎日公園で体操をやると、健康増進なのですけれども。そうするとスタンプカードにスタンプを押してくれる。それが貯まると、奈良市ポイントというポイントがもらえて、例えば、奈良交通のバスのチャージができるとか、タクシー券がもらえるとか、あとは奈良市内の企業の特産物なので、茅ヶ崎で言うところのチョイス茅ヶ崎みたいな、ああいうものに交換できるというサービスをやっているのです。

それが割とモチベーションになって、毎日参加しようというような気持ちになったりするので、それを学習の方にうまく、例えばイベントに出たら何ポイントが付くとか、講演会に出たら何ポイントとか、美術館とか博物館に、ただ何1ポイントつくとかそういうのも面白いのかなと思いましたので、何か似たような話を。千葉県和市川かどこかが、地域通貨をトライアル始めたみたいなニュースを最近見た覚えがあるので、けれども、そういう工夫も面白いのかなとは思いました。

○尾木委員

中学校側としてということで、いろいろ聞かせていただいて、子どもたちの様子を見てみると、今コロナ禍も明けて、すごく子どもたちも色々なことやりたがっている雰囲気をもすごく感じています。職場体験でも、今年の方がやはり幅広い種類の事業者さんが、引き受けてくださっていて、色々な体験をだいぶさせてくださっているところも多くなっているなということが言えます。

その中で、少し戻りますが、先ほどクリエイターの話が出てきましたけれども、子どもは本当に機会があれば、喜んで行くと思います。今更ながらと思ってずっと読んでいて思ったのですが、例えば、このクリエイターが集まる環境づくり、旧南湖院に行くかという、子ども達はいかないですね。

だから、やはりこれからせつかく施策の方向として、教育と書いていただいているので、公民館も今少しずつ行き始めていて、公民館がとても努力していただいて、例えば学習の場所に提供していただいているので、その場所をうまく生かして、それこそクリエイターの方が活動する場所の提供を、大きなところだけではなくて、何か小さなところでやっていただくと、それだけでも、子どもの関心を持って、そんなたくさんはいないけれども行くだろうし、この間も浜須賀会館と違うのですが、そこで卒業生のとても有名な方がバイオリンコンサートをしてくださったときも、知らず知らずのうちに集まって、とかで、地域を上手く活かして、クリエイターと言うとすごく難しいですが、なるべく具体的に言っていただいて、子どもの方がわかりやすいので、例えば、デザイナーさんが来ますとか、アニメ作っている方がいらっしゃいますよとか、みんなで書きませんかとか、そういうことをしてくださると、色々すぶっている子も来やすくなるだろうと思います。学ぶ場もありがたいですが、何かそういう学ぶ場でイベントがあると全然違うかなと、色々な方の話を聞いて感じました。

なので、私たちも、地域の方とうまくやっていきたいと思っているのですが、いつも逆に言うと、お祭りには呼ばれるのですが、お祭り以外は何もこないとか、そういう感じなのです。

どうしてもなんかあの中学生ってとてもよく働くので、ボランティアでよく呼ばれるのですが、ボランティアは、子ども達とても好きなので、声かければ喜んで来るのです。

だけど、誰かのために働くとか喜ばれるとかそこは好きなのですが、それは創作的な活動ではないので、それで終わっちゃって、公民館はそういう場所だというように思っている部分もあるし。

だからそういういろんな公民館で、そのボランティアが何か祭りとセットでもいいと思うのですが。

何かその参加するついでに、みんなで作成活動しないとかがあると全然違ってきます。

実際、浜須賀会館で美術部の子が作品を展示させていただいて皆すごく褒めていただいて、それだけでも十分やりがいになっているので、何かきっかけづくりにうまく地域のいろんな場所を使わせていただけるイベントっていうか、手軽に参加できるような、そういうのがあるといいのかなっていうふうに感じました。

あと先程のポイントみたいなのはすごい子どもは好きです。ボランティアポイント作っているのですが、ボランティアカードに別に見返りがなくても、そのカードにハンコが埋まることだけでもすごく喜んじゃうのは子どもなので、大人は見返り求めるとは思いますけど、子どもはそういうところあるので、ぜひそういうのもよいと思います。それこそ、私も全然行ったことないですけど、こういういろんな文化遺産があるのだとし

たら、そこに行ったら、ポイントもらえるよとか、何かうまく貯められればというのがあっても、それを学校で紹介することはすぐできるし、上手く協力しながら、ぜひ茅ヶ崎市を盛り上げていけたらいいですね。茅ヶ崎がみんな好きなですし、実際今すごく転居されて来て、転入生も多いのです。そういう方も含めて茅ヶ崎のこと全然知らない人たちもいっぱいいるのですよね。

浜降祭すら初めて今年行ったっていう子もすごくいるので、できるだけこか遠いところじゃなくて身近で、北であろうと南であろうと、近所で何かできるってすごく大事なことだと思うので、そういうのが上手くいかせるといいのかなって思いました。

○野田委員長

貴重な中学校の現場のお話ありがとうございました。

やっぱり子どもたちにそのアクティブでいろんなことに積極的にやるのだけれどもやはりイベント的で、大人が企画したものに駆り出されて終わったら帰るっていう、だからそこにかけての子どもの創発制を採用するってことなので、これからの社会はですね子どもが考えたことを子どもにやらせて子どもに抑圧すればいいですね。

それでは安全性なんか気を付けるけど大人がそれを見守りながら、育てていくということにも変わってきますから、学校の教育が変わると思うのです。

今みたいに黒板の前これ教えて、はい覚えなさいって言うのだったら、そんなことはインターネット見て子どもはもう知っていますから、価値がなくなります。

だから、その情報の意味とか、それをどう使うのかとか、今世界がどうなっているのかとかいうことを、知識を与えながら子どもと一緒に考えていくっていうふうに教育が変わっていくはずなのですよ。

そういう中で子どもたちが持っている、本来の創造性をできるだけ伸ばしてあげてあげるっていうのは教科に関係なく求められると思うのですよね。

特に部活がもう地域に任せられるようになりますから、そこで役所にやれっといっても、それできませんから、役所はやってはいけないのですよ。

それはNPOとかね、民間団体が立ち上げて、地域でやっていくってことを担っていくということを行政がバックアップするという形かなと思います。

クリエイター・シティというのは、要するにそういうことをやるお膳立てっていうか枠組みの話なので、中でこれやりたいあれやりたい、そうやって考えたりしないまま出したほうがいいのですよね。

だからそこで考える余地があって、やって行くっていうのがいいのかなと思っています。

だから子どもがあっという間に、10年後はもう社会の中に出て行って中心になっていくわけだから、今から準備しても全然早いということはないですから。

○岩本委員

今のお話で、さらっと聞いているととてもありがたい話なのですが、文化会館でも、子どもを対象とした、例えばパネルの講習会だとか、演劇のワークショップとか、やるけれど。

来るのは3人とか5人ですよ。

業者にはそこそこお金払っているんで、1人当たりの費用対効果としてどうなのって思うのだけど、いやでも幾らかかかってやるべきことはね、継続すべきじゃないかとは思っただけで、問題は、いいことやっても、PRができないのです。現実問題、PRにはどこも協力してくれない。文化会館がやることでさえ。

要はいろんな事業やってきたけど、小学校・中学校にチラシ持って行ってもいいですかって聞いても、絶対断られます。

市の広報で言うと、さっき広報すごく良くなったとおっしゃったけど、2回が1回に減ったのです。つまり、もう衰退しているのと同じですよ。幾ら紙面がよかろうと、紙面が半分になるわけだからなかなか掲載してもらえない。市の文化祭ですら。

そういう状況だから、その子どもたちにどのように普及させるのですか。実は僕らには、普及方法がないです。それを悩んでいるわけです。

それが一つと、さっき裾野っておっしゃったけど、まさに茅ヶ崎の社会教育とか生涯学習が遅れているのは裾野が広がらないからだよ。

なぜ広がらないかっていうと、東京や横浜の学校に行ったり、勤めている人が圧倒的に多いからですよ。茅ヶ崎に残っている人はもう定年退職後の方々が或いは専業主婦の方ぐらいでね。そういう方だけが市がやっている事業の対象者にしかならない。一番やって欲しい30代40代の茅ヶ崎を担って欲しい人たちは、市のそういった事業には参加できないって感じ。もちろん時間的にもできないし、してないですよ。

だから裾野が広がらないし、これ、そのアンケートの結果って言うけど、僕はこれ信じない。その抽出して答える人は特定の人なのです。かなり興味を持っている人しか答えてないのですね。

しかも19%でしょ。全市民のうちの19%が多少市の行政だとかやることにちょっと興味があるかな、公民館いつも使っているという人たちがたった19%しかなくて、その19%の中でも積極的に、市の情報知っている人が少ない。

この数字だけ見て、茅ヶ崎市民がたくさんこう思っていると思っただけは絶対いけない。

かなり特殊な人しか答えてないから。アンケートっていうのはそういう目で見ないで。

前の棒グラフなんかもね、3人しか参加者いないのに、そのうちの2人が参加したっていうと、そこは66%になっちゃうからね。

で、片や150人もいる中の半分しか希望してないっていうと、75人もいるのに、50%になる。

そんな棒グラフを並べた図面がありましたよね。ああいう棒グラフ並べちゃいけないですよ。うっかりすると間違えちゃうから。

もっとわかりやすい、真実に近いデータをどうやったら出せるか、その辺もやっぱりテーマだと思いますよ。

○野田委員長

ありがとうございました。

もし他に委員の方々から、ご意見がなければ、ここで閉じたいと思います。

本日出された意見で反映するものもあろうかと思しますので、記録に基づいて修正かけていただいて、フィードバックしていただければと思います。

一旦事務局の方にお返しします。

○事務局(大久保課長補佐)

次回は10月2日の開催を予定しておりますので、委員の皆様におかれましては、ご準備をお願いいたします。次回は第4回になり、皆さんにご検討いただいたものを踏まえたプランを作成しまして、答申というような運びになっておりますので、ご承知おきください。

○野田委員長

本日はありがとうございました。